

高校生のための学びの基礎診断



○高校生用の民間試験等を文科省が認定する。

「高校生のための学びの基礎診断」とは、義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得と学習意欲の喚起を図るため、文部科学省が一定の要件を示し、民間の試験等を認定する制度です。

これにより、高校生の基礎学力の定着に向けたP D C Aサイクルの取組を促進し、高校教育の質の確保・向上に資することを目的としています。2018年度からスタートし、2019年度から本格実施となっています。

現在の高校教育改革では、①教育課程の見直し、②指導方法の改善と教員の指導力向上、③多面的な評価の推進の3つが一体的に進められていますが、この制度は、③の一部に位置づけられています。

○制度の主な仕組み

基礎診断は、高校段階における生徒の基礎学力の定着度合いを測定する民間の試験等を、文部科学省が一定の要件に適合するものとして認定する仕組みです。

「学びの基礎診断のための認定基準・手続き等に関する規程」が定められていて、たとえば、測定ツールの出題については、学習指導要領をふまえた出題の基本方針に基づく問題設計とすること、知識・技能を問う問題に加え、思考力・判断力・表現力等を問

う問題を出題することなどが定められています。

また、対象教科は国語・数学・英語の3教科となっています。

測定ツールのタイプとしては、高等学校の共通必修科目の内容を重視した「標準タイプ」と、主に義務教育段階の内容を重視した「基本タイプ」の2つがあります。

○各学校での測定ツールの活用例

多様な測定ツールを活用しながら生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の工夫・充実を図っていくことが期待されます。

また、生徒が自らの強みや弱みを理解して効果的に学習することもできます。学習の成果や達成感を実感することで自己肯定感や自己有用感を高めたり、学習に向けた動機づけとして活用したりすることもできます。

さらに、受験結果をフィードバックは、生徒だけではなく学校に対してもきめ細やかに行われるので、学校における教育指導のP D C Aサイクルの取組にも役立てることが出来ます。

【測定ツール】

「高校生のための学びの基礎診断」で、基礎学力の習得と学習意欲の喚起を目的に、文部科学省が認定した民間の試験等。国語・数学・英語単独または複数からなり、英語は4技能(読む・聞く・話す・書く)の測定が求められている。2018年12月に一覧が公表され、2019年度から高校が任意で活用できる。